

平成27年度学校自己評価システムシート（県立松山高等学校）

目指す学校像 建学以来の伝統である「文武不岐」に基づき、幅広い教養と礼節を備え、社会に貢献できる品格あるリーダーを育成する。

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 「チーム松高」としての組織的指導力に基づき、生徒の学力向上に努め、進学実績を一層向上させる。 特にSSH研究開発実施計画の円滑な実施を通して、学校の更なる発展・活性化を目指す。 2 自己の在り方生き方を常に考えさせ、心身ともにたくましい、常に挑戦者たる生徒を育てる。 3 本校の良さを積極的に発信し、保護者、地域の小中学校や住民、同窓会との「絆」を深め、地域から一層信頼される学校づくりを進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

出席者	学校関係者	4名
	生徒	1名
	事務局（教職員）	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成 目標を意味する。）は複数設定可。 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価 (1月20日現在)		学校関係者評価 実施日 平成28年2月2日			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策			
1	ほとんどの生徒が国公立大学、難関私立大学への進学を希望している。「松高塾」を始めとする様々な取組を行い、学力向上を図っている。昨年度の進学実績は、一昨年度を下回り、国公立大現役合格28人（一昨年度30人）、難関私大現役合格54人（一昨年度71人）となった。今後、更に「チーム松高」として組織的指導体制を確立していく必要がある。	(1) 進学実績の向上	①1年次からの進路指導の充実（進路ガイダンス、学習オリエンテーション等の実施） ②「キャリア教育全体計画」の推進	○国公立大学現役合格36人（10%）、難関私立大学（早慶上理GMARCH）現役合格100人（28%）を達成できたか。 ○計画通り実施できたか。 ○生徒の進路意識が向上したか。	・国公立現役19人(東工大2 埼玉大2 群馬大6 ほか) ・難関私立現役40人(早大3 慶応大1 理科大4 学習院大5 明大6 青学大2 立教大3 中央大9 法政大7)【4月21日現在】 ・計画通り実施 ・平均学習時間：1年1.43時間(昨年1.12時間)2年1.06時間(昨年1.25時間)3年2.21時間(昨年2.70時間)	B	・進学実績の向上 ・2年生、3年生の家庭学習時間の増加 ・平成28年度から実施する土曜授業の円滑な導入			
		(2) SSH研究開発の実施と学力向上の取組	①SSH計画書に基づく方策の実施 理数科学力向上の取組の推進 ②「SS科学探究」及び「SS科学英語」のラボによる英語発表会の実施	○学校自己評価及び外部（運営指導委員会）評価が向上したか。 ○出前授業(8回以上)研究機関等体験活動(2回以上)を実施したか。 ○参加者が200人以上来場したか。 ○英語を使って相手に伝わる発表会が実施できたか。				・運営指導委員から高い評価をいただいた。 ・大学教授等の出前授業を10回、研究機関等体験を5回実施 ・今回、他校の生徒も参加し英語発表会を実施、外資系企業の外国人研修生等との活発な質疑応答が行われた。	A	・SSH指定最終年度における事業内容の充実及び次年度申請に向けた取組
		(3) 授業改善による学力向上への取組	①「学校進学力パートナーシップ推進事業」を活用した生徒による授業評価の実施	○生徒による2回目の授業評価は1回目と比較して向上したか。 ○生徒による授業評価が授業改善に反映されたか。	・生徒の授業満足度は2回とも5段階中4 ・授業評価アンケート分析結果を授業改善に活用	B	・授業改善の取組			
		(4) 保護者の進路意識啓発	①保護者進路説明会や大学見学会等の実施	○進路説明会に50%以上の保護者が来場したか。 ○大学見学会への参加者数が増えたか。 ○保護者の進路意識が向上したか。				・進路説明会参加家庭割合49%(昨年48%) ・大学見学会参加保護者数59人(昨年53人) ・保護者進路研修会に253家庭(1年107,2年146)が参加(2/13)	A	・保護者の進路意識の向上
2	多くの生徒が基本的な生活習慣を確立しており、3年間皆勤も多い。高い社会規範を確立し、社会のリーダーとして活躍できる生徒を育成することが求められている。安心・安全な学校づくりを継続して行い、授業に集中できる環境の確保に努める必要がある。部活動指導では、県の上位はもとより全国一を目指す部員が多い。	(1) 常に自己の在り方生き方を見つめさせ、礼節を備え、友愛の精神に満ちた強固な人格の育成	①規範意識の確立 ②「道徳教育全体計画」等の実施 ③安心、安全な学校生活の保障 ④生徒相談体制の充実	○整容指導の実施(3回以上)と個別指導で規範意識が向上したか。 ○毎朝の登校指導と毎日の遅刻者数が昨年度と比べて減少したか。(月ごと、学期ごと) ○全教員による登校指導(10回)が実施できたか。 ○在り方生き方教育の工夫改善ができたか。 ○地元警察との連携協力ができたか。 ○いじめ・問題行動が発生した場合、100%解消したか。 ○スクールカウンセラーを効果的に活用できたか。 ○生徒相談委員会の定期的な実施と職員研修を実施したか。	・整容指導を3回実施 ・4月～3月遅刻者延べ人数1,141人(昨年897人一昨年1,310人) ・全教員による登校指導を9回実施 ・途上国で義肢提供活動を行っている講師による講演会を実施、県の教材「明日を目指して」を活用したディスカッションを実施 ・学警連で定期的に情報交換を実施 ・アンケート調査により2件のいじめを把握し、2件とも解消 ・SCによる相談会を毎月実施し生徒・保護者延べ26人が利用(12月末現在) ・生徒指導委員会を毎月実施、外部講師による職員研修会を1回実施	A	・全教員による指導体制の継続 ・特別な支援を必要とする生徒への効果的な対応策の検討			
		(2) 学校行事、生徒会活動の一層の充実と活性化	①生徒会行事の円滑な実施	○文化祭来場者に実施したアンケート結果は良好か。 ○生徒主体による行事内容が昨年度より充実したか。				・文化祭に訪れたことがきっかけで高校説明会に来校した生徒が多くみられた。 ・生徒会による松一小での夏季学習支援や水泳指導、東松山市と連携したスリーデーマーチでのボランティアを実施	A	・関係機関との連携の継続
		(3) 部活動の効率的な実施と昨年以上の成果の実現(目指すは日本一)	①一層緻密な部活動指導体制の確立	○全国・関東レベルの大会へ10部以上が出場できたか。						
3	同窓会との協働によるクリアファイルの作成や生徒募集案内の工夫、教員・管理職による中学校訪問、塾主催行事への参加等、積極的なPRに努めている。今後、本校の良さを更にPRする工夫を重ねていく必要がある。	(1) 生徒募集のより効果的な実施	①効果的な情報発信の充実 ②中学校等の教育機関との連携	○ホームページの更新を随時行ったか。 ○中学校へのPRを積極的に行ったか。	・学校ホームページを毎日更新 ・生徒による出身中学校訪問130校(6月)、教員による中学校訪問120校(11月)	A	・教育活動の継続的な発信			
		(2) 義務教育諸学校等とのさらなる連携の強化	①地元小・中学校との緊密な連携	○市町村や塾等が主催する進学説明会へ30回以上出席したか。 ○職員研修の実施により一丸となった生徒募集体制の共通理解ができたか。 ○入試倍率が向上したか。				・塾等から依頼のあった説明会へは全て出席(28回)(昨年26回) ・教員による塾訪問130校 ・中学校教員対象の授業公開を新たに実施 ・入試倍率 普通科1.26倍(昨年1.26倍)理数科2.15倍(昨年1.90倍)	A	・市町村や塾との連携 ・説明会の実施内容の工夫

・生徒の進路意識の向上については、家庭学習時間だけでなく、多角的に分析して改善策につなげていただきたい。
・授業見学をして、教員が非常に丁寧に指導をしていることが分かった。
・プレゼンテーション力を向上させるためには、何度も経験することと同時に聞く力を身に付けることも大切である。

・生徒の校外での姿が一番の広告塔になっている。校内だけでなく校外でもはつらつさを印象づけてほしい。

・部活動については、施設面での環境整備を進めていただきたい。

・中学校への訪問数は相当なものだ。松山高校の良さをアピールする際は学校生活の楽しさもアピールするとよい。